

木野通信

KINO PRESS

KINO PRESS Issue 56 | 京都精華大学広報誌

木野通信

京都精華大学
NOV. 2012 Issue 56



巻頭 教員インタビュー

染色画家、鳥羽美花が描くベトナムの原風景。

56
号

CONTENTS

京都精華大学 木野通信 56号
NOVEMBER. 2012 KINO PRESS Issue 56

特集 01 FEATURES 01

- 04 巻頭 教員インタビュー
染色画家、鳥羽美花が描くベトナムの原風景。
- 10 芸術学部テキスタイルコース紹介

特集 02 FEATURES 02

- 12 新校舎が 2014 年 2 月に完成予定
ポピュラーカルチャー学部の学びの拠点に

大学ニュース NEWS

- 14 ポピュラーカルチャー学部ファッションコース教員が新たに決定／アニメーションコース教員が「平成 24 年度文化庁映画賞 映画功労部門」を受賞／人文学部教員が「第 34 回沖縄文化協会賞」を受賞 ほか

連載企画 REGULARS

- 20 研究室探訪 デザイン学部建築コース 新井スタジオをレポート
教員のブックレビュー マンガ学部 ジャクリヌ・ベルント先生が選ぶ「マンガの力を感じた」本
セイカ事典 さ行
- 22 イベント紹介 アセンブリーアワー講演会／石川九楊連続[公開]講座／デザイン学部建築学科・連続レクチャーシリーズ
レポート 「広島国際アニメーションフェスティバル」アニメーションコース教員 津堅信之
- 23 精華で学びたい方へ セイカゼミナール／2013 年度入学試験
- 24 京都精華大学の原点 第 3 回「第二の開学 ～ 4 年制大学への途～」
- 26 ○○を語れ 第 3 回「人間」

京都精華大学 学部・学科・コース

■ポピュラーカルチャー学部※

- ◎ポピュラーカルチャー学科
音楽コース／ファッションコース

■芸術学部

- ◎造形学科
洋画コース／日本画コース／立体造形コース
- ◎素材表現学科
陶芸コース／テキスタイルコース
- ◎メディア造形学科
版画コース／映像コース

■デザイン学部

- ◎イラスト学科※
イラストコース
- ◎ビジュアルデザイン学科
グラフィックデザインコース／デジタルクリエイションコース
- ◎プロダクトデザイン学科
プロダクトコミュニケーションコース／ライフクリエイションコース
- ◎建築学科
建築コース

■マンガ学部

- ◎マンガ学科
ギャグマンガコース※／キャラクターデザインコース※／カートゥーンコース
ストーリーマンガコース／マンガプロデュースコース
- ◎アニメーション学科
アニメーションコース

■人文学部

- ◎総合人文学科

※ 2013 年 4 月設置予定

染色画家・鳥羽美花が描く
ベトナムの原風景。

路地裏や漁村など生活感にあふれたベトナムの風景を描き続ける鳥羽美花。日本の伝統染色技法である型染めを駆使したその作品はベトナムで開催された展覧会で「桜の国から来た日本人がベトナムの発展の歴史を刻んだ」と評された。そんなベトナムとの出会いには、鳥羽の人生を変えたターニングポイントがあった。

text by YONEHARA Yuji, photographs by NAKAJIMA Mitsuyuki (Cover, P06)

『鼠に会おう場所』230cm×540cm 2007年

「京都精華大学は私の作家人生最大のパトロンでした」
今年7月、外務大臣表彰を受けた鳥羽美花の受賞祝賀会でのスピーチの言葉だ。教員としての環境や収入があったからこそ、納得がいく作品制作だけを追求できた。ひたむきに表現と向き合ってきた作家としてこれ以上素直な感謝の言葉はないだろう。

この表彰は、諸外国との相互理解等に貢献した人物に授与される。鳥羽がこれまで描き続けてきたベトナムの風景が美術作品の枠組みを超えて評価されたのだ。

鳥羽が描くベトナムはさまざま。焦土と化した街、川沿いに類々と並ぶバラック、ある時代に多くの人が出航していった小さな漁村、フランス植民地時代のおもかげを残す建築群、日ごとに近代化していく都市部……。

「日々の暮らしが絵になる」と鳥羽はいう。しかし、そのなかに人物が描写された作品はひとつとしてない。それは、鳥羽がなによりその風景を育んできた歴史を大切にしているからだ。

ベトナムの風景には、長い時間を経てきた人々の生命が沁み込んでいる。いま生活する人物を作品に描けば、作品は現在だけを映したものになる。堆積した地層のように、かつてその場所で生き、消えていった人々をも表現するためにあえて誰も描かないのだ。

時間を見つけては足繁くベトナムに通い、街のなにげない日常をスケッチし続ける。そして、帰国してその記憶が鮮明なうちに型紙に彫りおこす。鳥羽はもう20年近くもそんなことを続けてきた。それは、心打つその風景が今だけのものだと知っているからだ。

「ベトナムは行くたびに新しい表情に変わっている。ここだけは遺っていてほしいとずっと願っていた『私だけの世界遺産』も消えてしまいました。個人的には残念なことだけどベトナムにとって何が大切なのかは外国人である私が意見することじゃありません」

写真は瞬間を切り取るが、作品はその場所に込められた想いまでもを残すことができる。「今にして思えば、その作業に関っている喜びが私の原動力だったのかもしれない」と制作活動を振り返る。

ひとりの外国人作家が復興間もないベトナムに現れ、その熱気まじりの風景を描いた。その情熱が交流を飛躍させた。作家が選んだのが日本独自の技法「型染め」であることも興味深い。

なぜ、鳥羽はこれほどまでにベトナムの風景に惹かれたのだろうか。これまでの歩みからその情熱の根源を探る。

型染めに魅了されたのは「二瞬」の表現だから。



型染めとの出会い

— 数ある染色技法のなかでもどうして型染めを表現手段として選んだのですか。

— そもそも染色に特別関心があったわけではなかったんです。それまでは絵画を学んでいましたし、大学の授業で型染めに会ったのは、ほかの染色技法との違いもよくわかっていませんでした。

— 型染めに魅了されたのは「二瞬」の表現だから。絵筆で描く絵画であれば、後からいくらでも色をのせることができますし、失敗しても挽回できる。でも、型染めで使う型紙は刀で切り落としてしまうため、間違っても引き返すことができません。型染めのそんな部分におもしろさを感じたのが始まりです。

— また、始めに染まらない部分を型紙に彫ることも新鮮でした。形となって現れるモチーフではなく、まず余白を見るその行為が、自分の考え方を反転させているようにおもしろかったですね。これは、茶道や能の「間」や、文学の「行間」に通じる日本独特の感性なのかもしれない。そんなことを考える頃には、型染めの魅力にどっぷりはまっていました。

— その後、大学院在学中から日展をはじめとする大きな公募展を舞

台に活躍されます。若手美術作家としてはとても順調なスタートですね。

— 先生方に誘われるままに日展に応募し、当初はやりがいを感じていましたが、次第に「日本美術界の本流」に居続けることがつらくなっていくんですよ。その頃の私の作品は、当時の染色界では一般的だった草花などをモチーフとした装飾美。それが評価されていたし、自分でもその方向性は守らなきゃいけないと思いついていました。

— でも、だんだんものをつくる喜びを感じられなくなっていくんです。今になって思えば、窮屈だったのは環境ではなくモチーフや作品の方向性を狭めていた自分自身の考え方だったのでしょう。なんともいえない閉塞感に「もっと自由な作品制作がしたい」「変わりたい！」と強く思うようになっていきました。ベトナムと出会ったのはその頃です。

お腹の底から湧き上がる情熱

— ベトナムの風景を題材にするきっかけは何だったのでしょうか。

— 94年に日本からベトナムへの直行便が就航したのを知って、なん

となくひかれるものがあり、旅行に行くことにしたんです。その時は、新しいモチーフを探すとか制作のヒントを見つけないという考えはまったくありませんでした。当時の私はベトナムといえば戦争。ほかに何の知識もありませんでしたから。煮詰まっていた自分自身の現状もあって、未知の国へ行くことが魅力的に思えたんです。

— 到着前にはベトナムにモノクロームのイメージを持っていました。今の私の作品とは正反対ですよ。それだけ戦争の暗い印象が強かったんですね。でも、飛行機が着陸体勢に入ると、ホーチミンの街が見えてくると、目に飛び込んできたのは情熱的な赤。土、屋根瓦、街中に掲げられた国旗など、まるでこちらに迫ってくるような鮮烈な赤でした。それは私にとって焼け跡から立ち上がり、国民一丸となって世界へ浮上しようとするベトナムの熱気を象徴する色。さながら、型染めで染料を定着させる際の蒸気のようなと思ったことを今も覚えています。

— ホーチミンの街を歩くと、樹々の緑、河の青など赤以外にもいくつもの鮮やかな色があふれていることに気付き、ベトナムが持つエネルギーをさらに大きく感じました。

— 「この風景を作品にしたい」というお腹の底から湧き上がるような情熱は日本では得ることができなかった感覚でした。ベトナムには、それまで自分が欲していたものがすべてあるように思えたんです。

— 当時、ベトナムは急速に近代化へ向かっていた時代ですよ。

— 街の表通りは熱気に湧いていますが、その裏には今まさに消失しようとしている風景がありました。古い民家や細い路地など私が心打たれた風景は、明日あるかどうかもわからない場所ばかりだったんです。

— 「この風景をモチーフにして作品をつくりたい」「今、立ち上がるうとしてこの国と一緒に歩んでいきたい」。そう強く思いましたが、同時に「この風景をテーマに作品制作をすれば、今までの『日本美術界の本流』にはもういられないだろうな」とも考えました。それでも、チャレンジしてみたいと思う気持ちは抑えられなかったんです。

日本の美術界を飛び出して

— 人生における大きなターニングポイントですね。その後、どのような変化が鳥羽さんを待っていたんですか。

— まず、活動の場が変わりましたね。公募展では作品のサイズが決まっていますが、私はベトナムの風景は大きい画面を使って表現したかった。自ずと作品発表は個展が中心となり、小さな画廊に大きな作品をいくつも持ち込んでいましたね。

— 個展を見に来てくださった何人かの方から「ベトナムで展覧会をした方がいいの」と言われましたが、なんの方法も思い浮かばないし、ベトナムで外国人作家が展覧会をしたという情報もありませんでした。どうやって作品をベトナムに運ぶのかすら見当も付かなかった私を、美術館でキュレーター経験がある卒業生が手伝ってくれることになってようやくベトナムでの展覧会に向けて動きだすことになったんです。

— 当時のベトナムでは外国人作家の展覧会は異例のことだったんですね。

— 当時は特別な仕事でもない限りベトナムへ行く外国人などいませんでしたからね。日本人でもビジネススマンかジャーナリスト、労働組合関係者ぐらい。私もよく現地の人に「新聞記者ですか」と聞かれました。

— 展覧会を実現するために現地に滞在して、とにかく名刺一枚を持って心当たりを次々に駆けずり

回りました。日本大使館で言われたのは「ここは社会主義国です。言論統制があるのに外国人の絵を持ち込むなんて不可能でしょうね」。この回答からのスタートでした。

描くのは、ベトナムの風景の神聖さ

— 大変な道のりだったんですね。そこから展覧会にこぎつけるのは絶望的にも思えます。

— いや、苦しいとは思いませんでした。むしろルートが引かれていないおもしろさに夢中でした。どこに行っても「こういう交渉はあなたが初めてです」という返事ばかりが待っていて、次はどうなるんだろう、と。これは日本ではあり得なかった感覚でした。

— また、ベトナムは私にとって作品のモチーフの宝庫ですからね。展覧会開催のめどは立たなくても、現地にいればいくらでも作品ができる喜びはとても大きかったですよ。

— それに、私の作品を気に入ってくれたベトナム人が現れたんです。最初の展覧会の実現に協力してくれたベトナム政府の関係者は、日本の伝統的な型染めで絹に染め上げた作品だということをとっても気に入ってくれたようでした。

テキスタイルコースの充実した設備・施設



蒸し器

染料の色を定着するため 100℃の熱で蒸す。
2台の大型蒸し器では多数の作品をまとめて蒸すことができる。



織り機

織り演習室では本格的な織り機 18 台を備えている。



地染め・糊置室

型染めの工程では、糊で防染したあと、染料を乗せていく。



洗い場

染め作業後に使用する洗い場のスペースは非常に効率的。

TOPICS 公募展の受賞者が続出！

テキスタイルを専攻する大学院生が公募展に数多く受賞している。「2012 京展」では、テキスタイル専攻の芸術研究科生 3 人が入選。そのほか、歴史ある美術団体が主催する公募展や自治体主催の公募展で高い評価を受けている。

「2012 京展」入選 大村優里 (芸術研究科 1 年生) / 加國悠里 (芸術研究科 1 年生) / 松谷 歩 (芸術研究科 2 年生)

「第 65 回記念創造展」最優秀新人賞 府坂 杏 (芸術研究科 2 年生)

「第 89 回春陽展」入選 府坂 杏 (芸術研究科 2 年生)

「第 52 回蒼騎展」新人賞、アートデザインセンター賞 府坂 杏 (芸術研究科 2 年生)

「あさごアートコンペティション 2012」スポンサー賞 但陽 古川 樹 (芸術研究科 1 年生)

「第 16 回 フラッグアート展 2012 in GIFU」市長賞 大村優里 (芸術研究科 1 年生)

「第 27 回国民文化祭・とくしま 2012 全国現代クラフト展」奨励賞 松谷 歩 (芸術研究科 2 年生)

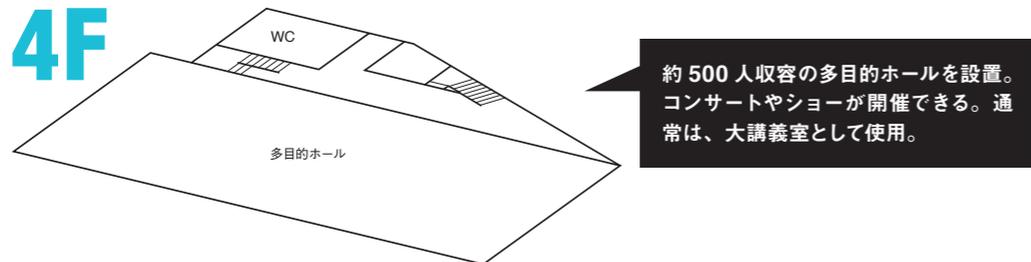
Faculty of Art Textiles Course

芸術学部
テキスタイルコース

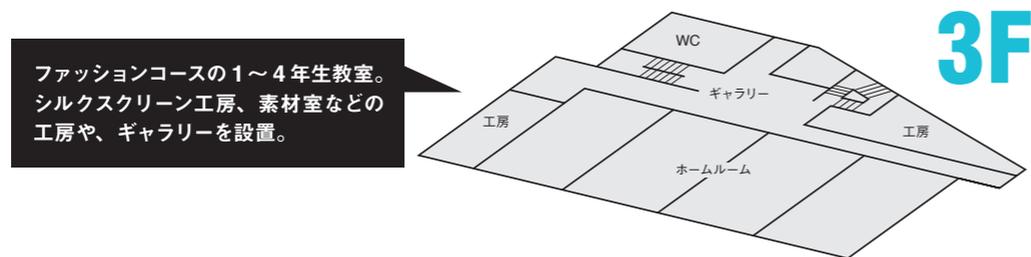


京都精華大学芸術学部テキスタイルコースは、
微細な染織の工程をしっかりと学び、自由な表現を追求します。
伝統技法の習得にとどまらず、繊維を使った立体造形やインスタレーションにも挑戦。
アートとデザインの境界線を越えて、既成概念を破る表現に挑みます。

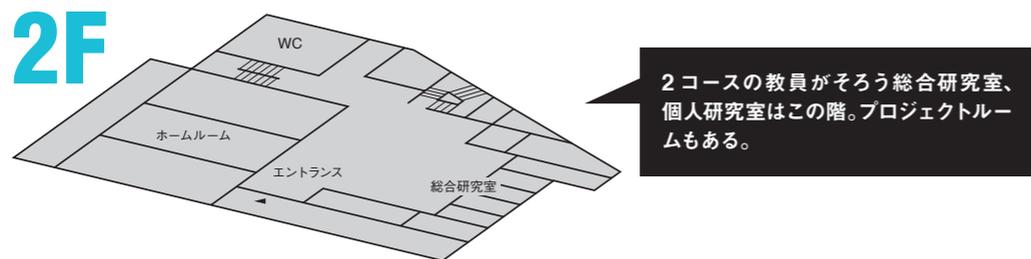
2014年2月、京都精華大学に 新しい校舎が誕生。



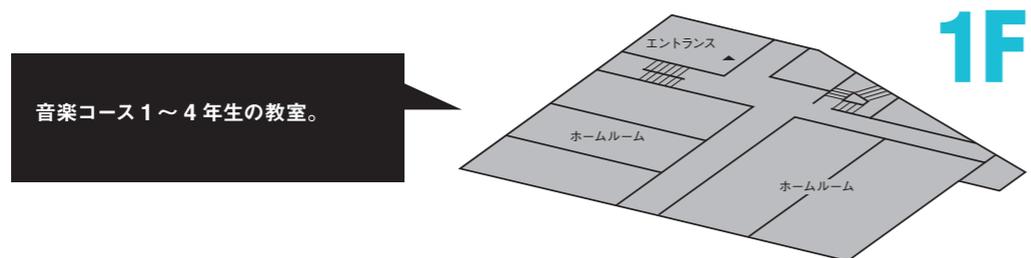
約500人収容の多目的ホールを設置。コンサートやショーが開催できる。通常は、大講義室として使用。



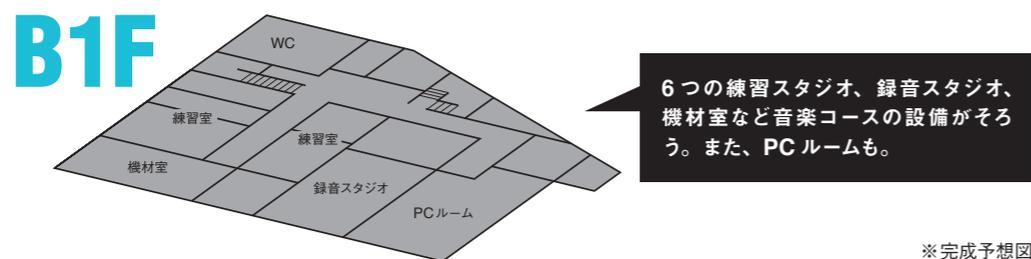
ファッションコースの1~4年生教室。シルクスクリーン工房、素材室などの工房や、ギャラリーを設置。



2コースの教員がそろう総合研究室、個人研究室はこの階。プロジェクトルームもある。



音楽コース1~4年生の教室。



6つの練習スタジオ、録音スタジオ、機材室など音楽コースの設備がそろそろ。また、PCルームも。

※完成予想図

来年4月よりスタートするポピュラーカルチャー学部の学生が学ぶ教室を中心に、幅広い用途に活用できる約500人収容のホールやスタジオも設ける予定だ。

ポピュラーカルチャー学部は、音楽コースとファッションコースからなる実技系の学部。そのため、新校舎では各々のホームルームのほか、約500人収容の多目的ホール、録音スタジオ、練習スタジオ、機材室、ファッションの工房、ギャラリーなどを設ける。また、2階の総合研究室は音楽コース、ファッションコースの教員が一堂にそろう場所となる。音楽やファッションに没頭できる制作環境が整うと同時に、両コースの教員も学生も一緒になって語り、新しいアイデアや作品を生み出す場となることが期待される。



新校舎完成予想図 / 地下1階・地上4階、総床面積は約3811㎡ (2012年9月現在)

01 ポピュラーカルチャー学部 ファッションコース教員が新 たに決定

京都精華大学が2013年4月に開設する、ポピュラーカルチャー学部ファッションコースの新たな教員が決定した。

蘆田裕史（ファッション研究者）講師／1978年、京都生まれ。未開拓なファッションの学術領域の中で数少ない若手研究者。2011年には日本唯一のファッション批評誌となる「Fashionista」を水野大二郎氏とともに編集・発行。また、今年東京都現代美術館で開催された「Future Beauty 日本ファッションの未来性」展にもキュレーターとして携わった。



蘆田裕史

山縣良和（ファッションデザイナー）講師／1980年、鳥取県生まれ。2005年セントラル・セント・マーティンズ美術大学ウイメンズウェア学科を首席卒業。ジョン・ガリアーノの



岩田さんは、「自分の小さなアイデアが商品化につながるという貴重な経験をした。これからもアイデアを形にすることで、おもしろいことをどんどん生み出したい」と話している。

05 教員の活躍

著作をはじめ、展覧会、作品発表など、京都精華大学の教員の活躍を紹介する。

◎展覧会

「竹宮恵子の世界展」
『漫画家生活45年の軌跡』
竹宮恵子（ストーリーマンガコース教員／マンガ家）
マンガ原稿の保存と公開を両立するために開発した、精巧な複製原画「原画（ダッシュユ）」や巨大ポスターなど

デザインアシスタントを経て帰国し、2007年に自身のファッションレーベル「Writtenafterwards（リトウンアフターワーズ）」を設立。ファッション界のみならずアートの世界からも注目を集めている。



山縣良和

02 アニメーションコース・明田川 進先生が「平成24年度文化庁映 画賞映画功労部門」を受賞

マンガ学部アニメーションコースの明田川進先生が「平成24年度文化庁映画賞」の映画功労部門を受賞した。

明田川先生は数多くのアニメーション作品の音響監督を手がけたことで知られる。昭和38年に虫プロダクションに入り、グループ・タック、サンリオ、手塚プロダクションを経て現在は（株）マジックカプセル代表。代表作に「リボンの騎士」、「幻魔大戦」、「AKIRA」などがある。これまでの華々しい業績と、京都

を展示。最終日にはトーク＆サイン会が行われる。

開催期間 2013年1月27日(日) 9時30分～17時(入館16時まで)
休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)、12月29日～1月1日
会場 宮城県・石ノ森章太郎ふるさと記念館



©竹宮恵子「地球へ…」

「生きる場所 ボーダーレスの空へ Sky over My Head」(グループ展)
塩田千春(芸術学部客員教員／現代美術家)

「場所」、「境界」と「生きること」の結びつき、さらにはその境界を越えた繋がりを生み出す表現を紹介する国際的な現代美術展。
開催期間 2月9日(日)
10時～20時(入館19時30分まで)
休館日 毎週火曜日
会場 熊本市現代美術館

精華大学での後進の育成に尽力している点が評価された。

03 人文学部・末次智先生が「第 34回沖縄文化協会賞」を受賞

沖縄研究を顕彰する「第34回沖縄文化協会賞」にて、仲原善忠賞を人文学部の末次智先生が受賞した。

仲原善忠賞とは、沖縄研究の中でも文化、芸能分野の研究者に授与されるもの。首里王府によって編纂された歌集「おもろさうし」を中心にした琉球の王権に関わる神話現象の考察や解明、研究が評価された。

04 プロダクトデザイン学科学生 デザインのインナーウェアが 商品化される

デザイン学部プロダクトデザイン学科と(株)ワコールとの産学連携プロジェクトから生まれた学生作品が商品化された。

商品名は「バラのブラ」。プロダクトデザイン学科4年生の岩田一真さんがデザインし、丸めて収納するとブラジャーとショーツがバラの花の形になる。

ワコールの「ウンナナクル」ブランドより11月15日から全国発売されており、予約時点で注文が殺到している。

◎著作(2012年8月～10月発行)

「名僧の書―歴史をつくった50人」
石川九楊(ビジュアルデザイン学科教員／書家)／淡文社
日本文化に多大な影響をもたらした傑僧・名僧50名を取り上げ、その一点一点から書の本質を読み解く一冊。

「六三四の剣」6・7巻

村上もとか(マンガ学部客員教員／マンガ家)／小学館
現代の剣豪になればと、両親が願いを込めて命名した名前、六三四(むさし)。故郷の岩手に見守られつつ、剣の道を突き進む。

「ナニワ銭道」もうひとつの「ナニワ金融道」13巻

西田真二郎(マンガプロデュースコース教員／編集者)／徳間書店
「週刊アサヒ芸能」にて連載中のコミックスの原作を担当。「ゼニ道・有為転変」篇。

「石炭の文学史―海外進出文学」論(第2部)

池田浩士(人文学部客員教員／ドイツ文学研究者)／インパクト出版会
石炭がたどる一生は、そのあらゆる段階で人間社会のあり方を照らし出している。小説や詩や戯曲、映画の脚本から流行歌、労働歌の歌詞にいたるまで、石炭をめぐる広義の文学表現を読

み解く。

「部屋へ！」
タナカカツキ（デザイン学部客員教員
／マンガ家）／バルコ出版
部屋の中で大自然に出会う「水草
水槽」。その世界にどんだんのめり込
んでいく、マンガ家の日々の暮らし
を描く。

「琉球宮廷歌謡論―首里城の時空から」
末次智（人文学部教員）／森話社
地域も時代も越えて広がっていくう
たは、琉球の「宮廷」ではどのように
響いたのか。本州弧の宮廷歌謡との比
較を織り混ぜつつ、首里城という祭祀
空間を読み解く。

06 芸術研究科生と卒業生が、フランスのアーティスト・イン・レジデンスに参加

大学院芸術研究科生とカートウー
ンコース卒業生の4名が、フランス・ブ
ルターニュ地方で実施されたアーティ
スト・イン・レジデンス [L'Art dans
les Cités-Peintres Japonais] に参加
した。

同レジデンスは、非営利団体
Association des Petites Cités de
Caractère de Bretagne が主催するプ
ログラムで、隔年ごとに一つの国から
数名のアーティストを招聘して行われ

ているもの。

参加者は8月からおよそ1ヶ月間、
ブルターニュ地方の歴史的な都市16ヶ
所を巡回し、現地に滞在しながら作品
を制作した。訪問先では地元の新聞社
から取材を受けるなど、各地で注目を
浴びた。
作品の一部は主催団体によって買い
上げられ、今後画集の発行、訪問地と
パリにて巡回展が開催される予定と
なっている。

【参加学生・卒業生】
楠本衣里佳（芸術研究科修士課程2
年／日本画領域）
藤野裕美子（芸術研究科修士課程2
年／日本画領域）
秋山佳穂（マンガ学部カートウー
ンコース卒業）
多里織（マンガ学部カートウー
ンコース卒業）



「誘う夜」楠本衣里佳



「COMEL (コメル)」丹波優美子



09 グラフィックデザインコース2年生が「OCC学生広告賞」特別賞を受賞

「第2回OCC学生広告大賞」にお
いて、デザイン学部グラフィックデザ
インコース2年生の杉江宗謙さんが特
別賞を受賞。

同賞は、大阪コピーライターズ・ク
ラブが広告表現技術の向上と優秀な人
材の発見を目的に開催。昨年度に引き
続き、グラフィックデザインコースの

学生が受賞する快挙となった。



「しっかり者の朝日新聞。」新聞広告 杉江宗謙

10 卒業生が「大野城まどかぴあ版画ビエンナーレ」で入賞

「第8回大野城まどかぴあ版画ビエ
ンナーレ」において、大学院美術研究
科修士課程修士の勝島啓介さんが大
野城まどかぴあ賞を受賞した。

同「ビエンナーレ」は、大野城まどか
あ初代館長であった池田満寿夫の優
れた業績を顕彰するとともに、版画芸術
の振興を図ることを目的として隔年で
開催されている公募展。全国公募によ
り集まった374点の版画作品の中
から、入賞5点、入選50点選ばれた。
勝島さんはキャリア支援課の職員で
あり、就職活動を行う学生や進路に悩
む学生のサポートを行っている。



「Link-Guerlesquin-」藤野裕美子



「チェケパーの冒険」秋山佳穂



「Josselin」多里織

07 イラストレーションコース3年生が「ネクスト大賞」を受賞

デザイン学部イラストレーション
コース3年生の樋口聡子（ペンネーム
／ひぐちさとこ）さんが宙（おおぞら）
出版主催「第9回ネクスト大賞」にお
いて大賞を受賞した。

同賞は、ホームページ等で発表され
た作品を対象とするWebマンガ専
門のマンガ賞。受賞作の「まよらかガ
ルズ」は、1年以内の書籍出版化を前
提に「ネクストコミックファースト」
で連載される予定となっている。

08 グラフィックデザインコース4年生が「パッケージデザインコンペティション」に入賞

「2012年度パッケージデザイン
コンペティション」において、デザイ
ン学部グラフィックデザインコース4
年生の丹波優美子さんがパッケージジ
ザイン賞を受賞した。

「日本パッケージデザイン展2012
とやま」の一環として、学生を対象に
開かれた同コンペティションでは、「お
菓子を包む」をテーマに、夢のある楽
しいパッケージの提案を公募。応募総
数112点の中から選ばれた。

「第2回OCC学生広告大賞」にお
いて、デザイン学部グラフィックデザ
インコース2年生の杉江宗謙さんが特
別賞を受賞。

「第8回大野城まどかぴあ版画ビエ
ンナーレ」において、大学院美術研究
科修士課程修士の勝島啓介さんが大
野城まどかぴあ賞を受賞した。

REGULARS

- 20-21 研究室探訪 Laboratory / 教員のブックレビュー Book Review / セイカ事典 Cyclopedia
- 22-23 イベント紹介 Event / レポート Report / 精華で学びたい方へ Information
- 24-26 京都精華大学の原点 / ○○を語れ Column



「読書をする女達」秋山佳穂（2011年度 カートゥーンコース卒業制作）

11 卒業生が「日本伝統工芸展」日本工芸会奨励賞を受賞

「第59回日本伝統工芸展」において、美術学部陶芸専攻（現・陶芸コース）卒業生の古川拓郎さんが日本工芸会奨励賞を受賞した。
受賞・入選作品は「日本伝統工芸展」として、全国11ヶ所の会場を巡回する。



「釉裏白金彩鉢」古川拓郎

12 卒業生が「ゲンビどこでも企画公募2012」で特別審査員賞を受賞

広島市現代美術館主催「ゲンビどこでも企画公募2012」において、芸術学部版画専攻（現・版画コース）卒業生の芳木麻里絵さんが山出淳也賞（特別審査員賞）を受賞した。
同公募は、広島市現代美術館のバブリックスベースをつかった作品展示プランを募集、選出されたアーティストに美術館の空間を開放して実際に作品

を展示・発表するオープンプログラム。6回目となる今回は1006件の応募プランから8作品が選出され、そのなかから4点の特別審査員賞が選出された。



「Silkscreen works」芳木麻里絵

13 卒業生が「ペーターズギヤラリーコンペ2012」を受賞

マンガ学部カートゥーンコース卒業生の有延和磨さんが「ペーターズギヤラリーコンペ2012」において、鈴木成一賞を受賞、箭内道彦賞次点にも選ばれた。

「人」をテーマにしたイラストレーションを募集した同コンペでは、応募人数579人（応募作品数1711点）の中から審査員によって4人の受賞者が選出された。受賞者による作品展がペーターズギヤラリーにおいて2013年2月に開催される。

14 卒業生が「グッドデザイン賞」を受賞

「2012年度グッドデザイン賞」において、デザイン学科アーバンリビングデザイン専攻（現・建築コース）卒業生の三苦健次郎さんがデザイン・基本設計した共同住宅「サンクタス川崎タワー」がグッドデザイン賞を受賞した。



「サンクタス川崎タワー」三苦健次郎

セイカ事典 さ行

京都精華大学に関わりの深い人、事、物を解説する。

さ 三女人菩薩【さんによにんぼさつ】

棟方志功氏によるフレスコ画。京都精華大学情報館所蔵。阪神淡路大震災時、高石市で被害にあい、保存先が公募されていた同作品を、大学が引き受けた。

さよならは仮のことは【さよならはかりのことは】

2006年、人文学科廃止記念行事にて、谷川俊太郎氏から贈られた詩。学生自らが谷川氏に依頼した。

し 人文学部【じんぶんがくぶ】

1989年、「新しいヒューマニズム」を理念として開設。現在は、総合人文学科の1学科、収容定員300名。学部長は堤邦彦先生。

す スパゲティ宣言【すばげていせんげん】

1969年、美術科の一部の学生が、表現の自由を掲げて行った宣言。デッサン中心の伝統的なカリキュラムに抗議し、新しい表現を追求するため独自に授業を行った。

せ 精華人【せいかじん】

京都精華大学の関係者が、自らを誇りをもって呼ぶ名称。また、同窓会が発行する広報誌の名でもある。

そ 卒業証書【そつぎょうしょうしょ】

京都精華大学の卒業証書は、「あなたは京都精華大学において友愛の精神を養い～」から始まる。開学時からの、学校の成績よりも友愛の精神・人間尊重の気持ちを持ち続けることが大切だという考えが貫かれている。



と思われるかもしれませんが、僕は思想を建ててい
ると思っっている。こんな建物ができた
ら家族がこんなふうになる、そうなれ
ば楽しいな、と家族や社会へ提案がで
きるのが建築です」。

芸術作品とは違い、プレゼンテー
ションで実物を見せることができな
い建築。クライアントに対して、いかに
完成形や未来の生活をイメージして
もらうかが大切だ。文化の異なる海外で
数多くのコンペを勝ち取ってきた経験
から、学生には、CGグラフィック
や模型制作の技術指導はもちろん、話
術や社会性の大切さを説く。

「何を伝えたいのか」「どうしてそう
したいのか」と問い、個々の思想を自
覚させ、さらに考えを深めるよううな
がす新井先生。内にもつ思想を表現と
して落とし込む術を今日もスタジオで
教えている。



新井清一先生は長年海外において建
築作品を発表してきた。建築物のほか
に都市を設計するプロジェクトも手が
け、その取り組みはロシア・バジコ
トスタン共和国の文化勲章受賞とい
う日本人初の快挙となった。

指導をしている建築コースでは、3
年生になると教員ごとのスタジオ(研
究室)に所属し、実際の建築事務所の
ようにチームで制作にあたる。制作課
題の成果は、オープンジュリー(公開
審査会)で発表し、他の教員や学生ら
から批評を受ける。

今期、新井先生はスタジオの課題と
して、京都市の未来の景観を考えるこ
と、奈良のある広地の用途を民間に提
案することの2つを挙げた。「課題を
利用して社会に自分の考えを提案して
ほしい」と、実践力が鍛えられる課題
を選んだ。

「一般的に建築は建物を建てている

研究室探訪

先生の研究室、授業を訪ねて。

デザイン学部建築コース 新井研究室

新井清一
デザイン学部建築コース教員。一級建築
士。建築事務所「ARAI ARCHITECTS」
代表(1991年~)。現在ロシア、アル
メニア、中国など4件の都市設計に携
わっている。

Book Review

教員のブックレビュー

マンガ学部 ジャクリヌ・ベルント先生が選ぶ
「マンガの力を感じた」本



私はマンガ研究に携わって
いますが、「読み手」としても、
いつもマンガの力を感じてい
ます。今回は、マンガの持つ表現の可
能性を感じられる3冊を紹介します。

1冊目はアメリカの作家アート・ス
ピーゲルマンの「マウス」です。この
作品はユダヤ人である彼の父親のアウ
シュビッツ収容所での過酷な体験を描
いたもので、マンガとしてはじめて
ピューリッツァー賞を受賞していま
す。ユダヤ人をネズミ、ドイツ人を猫
など動物で表したり、写真をマンガへ
と描き直したりすることで、アウシュ
ビッツで起こったことをいかに記憶し
ていくかを読者により深く考えさせて
いるのです。この作品により欧米人に

よるマンガへの関心が高まり、文学的
な内容を含む「グラフィック・ノベル」
の世界が確立されたと言えますね。

「GIRL」も彩色されていない海
外の作品ですが、日系の女性作家2人
が女子高生の日常を描いたこの物語は
テーマ的に日本の少女マンガに近く、
左開きであるにもかかわらずスツと読
めます。日本のマンガ専門ではない出
版社の編集者が惚れ込み、英語原作の
出版形態を単行本に直し、日本での出
版を実現させました。

日本のマンガが翻訳されて海外で広
く出版されているように、これからは
海外の作品の日本での出版が活発にな
ると思います。そして、本当の意味で
のマンガのグローバル化が進んでいく
のでしょ。

3冊目は岡崎京子さんの「pink」。
1990年代の女の子の日常を描いて

いる点では、「GIRL」と共通してい
ます。岡崎さんのマンガは、吹き出し
が主人公に迫ってくることや、スク
リーントーンが微妙にキャラクターの
輪郭線を超えてしまうことからわかる
ように、ストーリーの内容をマンガな
らではの表現を通して示唆してくれま
す。作者と私が同年代ということもあ
り、個人的にも非常に思い入れが強い
作品です。

マンガについていろいろな読み方ができ
ると思うんです。人によっては「線描」
に注目する者もいますし、キャラに注
目する人もいます。マンガ文化を支えて
いくのは読者ですから、「読む」こと
の多様性を大切にして、海外の作品や
一昔前の作品にもどんどんチャレンジ
してほしいと思います。



「pink」
岡崎京子
(MAG COMICS)
評論家に「マンガは文学に
なった」と絶賛され、岡崎京
子の名を文学界にまで知らし
めた傑作。ワニを飼う女の子
を通して愛と資本主義をめぐる
冒険と日常を描く。



「GIRL」
ジュリアンタマキ(作画)・マ
リコタマキ(原作)(Sanctuary
books New comics)
16歳の女子高生スキムが送る
思春期の日々を描いた日記式
の成長ストーリー。もっとも
卓越したコミックに与えられる
イグナツ賞を受賞している。



「マウスアウシュビッツを生
きのびた父親の物語」
アート・スピーゲルマン(晶文社)
作者はポーランド系ユダヤ人の
家庭に生まれ、ニューヨークで
育つ。1991年に完結した自伝
的作品で今までにないアウシュ
ビッツへのアプローチから世界
中で大きな関心を引き起こした。

ジャクリヌ・ベルント

マンガ学部教員。ドイツ生まれ。1991年に来日する以前から
旧東独で日本のマンガに出会
う。2009年より本学マンガ
学部教員および国際マンガ
研究センター副センター長に。
2010年よりマンガ研究科長。
マンガをめぐる芸術論と比較
文化論に研究の重点を置く。



アセンブリーアワー講演会

京都精華大学が開学した1968年から続く公開トークイベント。あらゆるジャンルから一流のゲストを迎えます。

Chim ↑ Pom (アーティスト集団)

「Chim ↑ Pom 講演会」

【日時】 11月29日(木) 16時20分～17時50分
【場所】 京都精華大学 黎明館 L-101
【申込】 不要

デザイン学部・デザイン研究科教授 石川九楊連続【公開】講座

「“Style.” 誰がそれを美しいと決めたのか。」

石川九楊(デザイン学部・デザイン研究科教授)による連続公開講座。

第6回:日本の政治のスタイル

【日時】 12月13日(木) 13時～14時30分
【場所】 京都精華大学 春秋館 S-201
【申込】 不要

デザイン学部建築学科・連続レクチャーシリーズ

「2012年後期プログラム 可能性の空間[空間論演習2]」

建築コース教員、ゲスト講師が空間をめぐる対談や講演を行います。

「HEAVEN」

ROGGYKEI(ファッションデザイナー/興梠 仁+宮腰景子)×鞍田 崇
(建築コース非常勤講師)
【日時】 11月24日(土) 13時～14時30分

「近年の活動について」

宮本隆司(写真家)
【日時】 12月1日(土) 13時～14時30分

「ヒトとカラダと…」

伊藤直樹(クリエイティブディレクター/PARTY)×服部 滋樹(graf代表)
【日時】 12月8日(土) 13時～14時30分

「WORLD」

高木正勝(映像作家/音楽家)×鞍田 崇
【日時】 12月15日(土) 13時～14時30分

「家具職人として」

前田智之(木工家)×荒谷省午(建築コース非常勤講師)
【日時】 12月22日(土) 13時～14時30分

「NATURE」

三浦雅之(株式会社栗代表取締役)×鞍田 崇
【日時】 1月12日(土) 13時～14時30分

【場所】 各回ともに京都精華大学 風光館 F-331

イベント紹介

京都精華大学に関係するイベントをご案内します。一般の方も聴講いただけます。

Event

Report

レポート

京都精華大学の教員によるレポート。

広島国際アニメーションフェスティバル開催

マンガ学部アニメーションコース教員 津堅信之



今年8月、第14回広島国際アニメーションフェスティバルが5日間におわたって開催された。この映画祭は、アニメーション専門の国際映画祭の「4大メジャー」に数えられ、国内外の多くのアニメーション作家が参加する。

特にコンペティション部門には、今大会では世界63の国と地域から過去最多の2110本の応募(日本からは297本)があった。その中には多くの学生作品が含まれ、広島フェスは、いわば新人作家の登竜門となっている。

66本という厳しさである。そこからグランプリなどの受賞作が決められるのだが、出品総数との比較で考えると、本選に入るだけでも大変なことだとわかる。

そうした中で、本学アニメーションコースの卒業生・石田祐康君の「rain town」が見事に本選に入り、大会2日目のコンペティションで上映され、約千人の観衆の大きな拍手を浴びた。石田君は記者会見で、「雨が降っている風景をメインに見せたかった。自分が本当に作りたいと思っていた作品」と語った。

最終日の表彰式で、私と石田君は並んで客席に座り、演壇からの受賞

Information

精華で学びたい方へ

京都精華大学が行う
受験生・高校生向けイベントを
紹介します。

セイカゼミナールを開催

12月にセイカゼミナールを開催します。セイカゼミナールとは、大学の授業を体験できるイベントです。「メッサン講習会」をはじめ、コースの授業を体験できるプログラムが多数用意されています。申込は大学Webサイトよりお申し込みください。

日時:12月15日(土) 9時～17時
場所:京都精華大学
申込:事前申込制

2013年度入学試験のおしらせ

2013年度入学者を対象とする入学試験を行います。

■一般入試A日程
2月に実施する入学試験。「一般方式」と「センター併用方式」の2つの方式があります。「一般方式」では実技・学力・面接などの本学個別試験を実施し、「センター併用方式」は本学個別試験に大学入試センター試験の結果を合算して判定を行います。



www.kyoto-seika.ac.jp/opencampus/seminar/

【試験実施学部】すべての学部
【試験会場】京都・東京・名古屋・広島(出願時に選択)
【出願期間】2013年1月7日(月)～18日(金)
【試験日】2月2日(土)・3日(日)
【合格発表】2月13日(水)
【手続き締切】
1次締切 2月20日(水)
2次締切 2月28日(木)

■一般入試B日程
3月に実施する入学試験。人文学部のみ試験を行います。

【試験科目】
「小論文(課題論述)」
「2教科型(国語、英語の2教科すべてを受験)」※1つの試験から受験可能
【試験実施学部】人文学部
【試験会場】京都
【出願期間】2013年2月8日(金)～21日(木)
【試験日】3月2日(土)
【合格発表】3月9日(土)
【手続き締切】3月14日(木)

資料請求について

京都精華大学のパンフレット、入学試験要項が必要な方は、左記連絡先かWebサイトより資料をご請求ください。



受験生フリーダイヤル 0120-075017
nyushi@kyoto-seika.ac.jp



アニメーションコースの卒業生・石田祐康さん



「rain town」

のコールを待ったが、残念ながらそれはなかった。しかし、世界4大メジャーの映画祭で自作が上映されたということは、彼にとっては自信になったはずだ。

2年後に開催予定の次回大会では、ぜひ、本学の学生作品から受賞作が出ることを期待したい。

京都精華大学の前身である京都精華短期大学が1968年に創立されて、44年になる。多数の卒業生を輩出し、学部数、学生数も増え、たしかに発展を遂げる一方で、「精華らしさがなくなってきている」という声も聞こえてくる。たしかに創成期を直に知る教職員もほとんどいなくなり、新しく参加したメンバーや入学した学生には「自由自治」という言葉だけが抽象的に響いているのかもしれない。そんな現在だからこそ、京都精華大学における「自由自治」とは何なのか、いま一度語られなければならない。45周年を迎え、新学部、新学科の開設など大きな飛躍を迎えようとする2013年を前に、京都精華大学の教育理念や存在意義、なぜ生まれ、どこへ向かうべきなのか——そうした京都精華大学の原点を探求するのがこの連載の目的である。

京都精華大学の原点 第3回 『第二の開学～4年制大学への途～』

短期大学として出発した京都精華短期大学にとって、4年制化は設立当初からの悲願だった。そもそも短大ではなく、4年制大学として開学する選択肢もさぐられていたが、資金面などから断念せざるを得なかった。

岡本清一・初代学長も短期大学の最初の学生募集パンフレットに「わが大学は、4年制大学に発展するまで、こしはばらくは、短期大学として出発しなければならぬ事情にある」と記した。

4年制大学化は、精華にとって、その教育理念を展開するために必須の条件だったのだ。しかし、その途は決して平坦なものではなかった。1989年に人文学部が発足して完全に4年制大学となるまでに、短期大学としての開学から20年の時間がかかった。

1979年京都精華大学美術学部開設への苦闘

短期大学開設時、美術科の教員たちには、十全な教育を施すには2年間ではあまりに短い、という意識が強かった。2年間に4年間の教育内容を凝縮し、4年制大学に劣らない教育を行っているという自負は有しつつも、4年制化への思いはやみがたかった。

努力によって、いまにいたる京都精華大学の跳躍の第一歩をかけたという記念すべき日だった。

京都精華大学美術学部
(1979年4月)

◎造形学科(定員60名)
洋画分野/日本画分野/立体造形分野

◎デザイン学科(定員60名)
デザイン分野/マンガ分野/染織分野

※1年次は共通基礎科目群(描写表現/色彩表現/立体表現)を全員必修。
2年次から6専門分野の実習科目群を履修。

1989年人文学部開設により完全4年制大学へ

1979年から京都精華大学は美術学部と短期大学部英語英文科で構成される4年制大学となった。京都初の4年制私立芸大であり、全国的にもまだまだ4年制芸大が少なかったなかで、学内の士気は高まった。

しかし、大学執行部には「まだまだ大学としては未完成だ」という認識が強かった。本来、大学といえはあたりまえに考えられる施設がほとんど備わっていないからだ。いまの精華の姿しか知らない年代には想像しにくい、体育館はなく、図書館も

開学直後に陥った経営危機などの混乱を乗り越切った70年代半ば、4年制大学開学へ向けた準備が本格的にはじまった。

しかし、京都精華大学では、トップの決定に全体がしたがうわけではなく、いつも議論が巻き起こる。学生募集が必ずしも順調ではなく、経営が苦しいなかでの拡大政策への反対もあった。アットホームで濃厚な人的交流が失われることへの懸念を表明する声もあった。美術科だけが先行して4年制化した背景に、こうした反対意見の影響があったとの指摘もある。

それでもやはり4年制大学設置を推進する力がまさり、1975年7月に4年制大学美術学部開設申請書が文部省に提出された。

だが、文部省から、より教育条件の整備を計る必要があることを理由に、開学予定の1977年を1年先送りするよう指導があり、76年2月に申請書を取り下げることになった。

76年7月に再度申請書を提出するが、12月にはまたもや文部省の指導で取り下げざるを得なかった。京都は政令指定都市であることと、美術系大学の収容定員は充足していることのみふたつが理由だった。折悪しくも、政令指定都市では大学の開設を規制するという法律ができたばかりだった。

館を建設した。

やはり学内からは反対の声があった。「小規模大学の濃密さが失われる」「理想があれば、施設がなくとも教育はできる」というこれまでもあったセイカイズムばかりでなく、校地整備による自然破壊への懸念の表明もあった。

しかしこの時、学生数を増加して増収をはからなければ、現在のような、情報館、体育館、食堂棟、グラウンドなどの設備を有した大学にはなりえなかっただろう。

こうした、現在の京都精華大学の姿をつくりあげるのに、決定的に重要な役割を果たしたのが、人文学部の創設だったのである。

その意味では、出発点はインフラ整備のための収入確保といえるかもしれない。しかし、教学内容はそのような経緯とは関係なく、京都精華大学ならではの画期的な学部を開設するべく、検討がすすめられた。

京都精華大学人文学部には、上野千鶴子(社会学者)、岡井隆(歌人)、松本健一(思想史家)ら既成のアカデミズムにはおさまりにきらない斯界のトップランナーたちが新たに教員を迎えられ、フィールドワークを大胆に取り入れたカリキュラムは大きな注目を浴びた。

1989年4月の開学だった。

いまでは高等教育行政も規制緩和が進んでいるが、当時は文部省の大学への指導権限は強大なものであった。短期大学執行部は足しげく東京へ通い文部省と折衝を重ねたが、許認可権を背景とした官僚のあまりに尊大な態度に、思わず怒鳴りつけてしまったという精華らしいエピソードも伝わっている。

2度の取り下げにもめげず、学内には、今度こそ4年制大学へという熱気が渦巻いており、77年7月に3度目の申請書が文部省に提出された。今回は教学や施設の改善実績が評価され、第一次審査を通過した。

はじめて第一関門を突破した学内の意気込みはすさまじく、ある教員の記録によると、78年度1年間で開催された会議は、教職員合同会議10回、全学教授会15回、美術科教授会45回にのぼり、その他小会議も含めると数えきれない会議が開かれている。最後のチャンスに賭けて、全学挙げての全精力がそそぎこまれて、準備が進められたといえるだろう。

78年10月に文部省私立大学審議会による現地調査が実施され、12月25日に念願の京都精華大学美術学部の設置が認可された。京都で初の4年制私立芸大だった。

全大学人の強い信念と粘り強い

4月1日に国際会館で催された人文学部第一回入学式の記念講演は短期大学の初代学長・岡本清一だった。岡本はすでに80歳を超えており、若干弱々しいとも思えるトーンで講演ははじまった。だが話が進むにつれ、口調は熱を帯びていき、イギリスの作家・サルマン・ラシユデイが執筆した小説「ムハンマドを冒瀆したとされ、イラン宗教指導者ホメイニから死刑宣告を下された話題に入ったころには、激しいアジェーションへと変わっていった。自由を生涯のテーマとした政治学者であり、自由を大学の基本理念に据えた初代学長であった岡本は、言論の自由をテロリズムで圧殺しようとする動きを強く弾劾し、新入生たちにこう問いかけた。「自由を守るのか。自由の抑圧を許すのか。自由を守るために私とたたかう者は手をあげろ!」おすおすと幾人かが手を挙げはじめると、他の者も呼応し、満場の新入生たちは最終的に皆その手を高く掲げた。

こうして、完全に4年制となった。自由自治の大学。京都精華大学は出発した。

京都精華大学人文学部
(1989年4月)

◎人文学科(定員180名)

京都精華大学とは

京都精華大学は表現の大学です。2013年4月にポピュラーカルチャー学部を開設。さらに、デザイン学部にはイラスト学科、マンガ学部にはギャグマンガコース、キャラクターデザインコースを新設します。ポピュラーカルチャー、芸術、デザイン、マンガ、人文あわせて5学部編成となり、新しい文化と社会を創造する人材育成をさらに進化させていきます。

ご支援くださるみなさまへ ～ご寄付のお願い～

様々な支援に関して、ご寄付のご協力をお願いしております。

「学生奨学金制度への支援」、「学生生活への支援」、「文化振興活動への支援」、「国際交流活動の支援」、「教育・研究設備整備事業への支援」より寄付用途を選んでいただき、みなさまのご意向にかなう運用をしています。お申し込みは、銀行窓口、もしくは、インターネット上でのクレジットカード決済にてご寄付いただけます。

この寄付金は、文部科学省から「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けており、税金控除の優遇措置を受けることができます。詳細につきましては寄付募集 Web サイト、リーフレットをご覧ください。

●寄付募集 Web サイト

www.kyoto-seika.ac.jp/donate

●お問い合わせ

京都精華大学企画室寄付募集担当

TEL : 075-702-5201 / FAX : 075-702-5391 E-mail : kikaku@kyoto-seika.ac.jp

◎卒業生の方へ

「木野通信」送付先住所の変更は、企画室・木野会事務局までご連絡ください。

E-mail : kinokai@kyoto-seika.ac.jp FAX : 075-702-5391

木野通信

56

木野通信 第56号

2012年11月20日発行

京都精華大学 入試広報部 広報課

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

TEL : 075-702-5197

www.kyoto-seika.ac.jp

木野通信とは、京都精華大学が年4回発行する広報誌です。

京都精華大学

ポピュラーカルチャー学部 (2013年4月設置予定) / 芸術学部 / デザイン学部 / マンガ学部 / 人文学部

〇〇を語れ 第3回 『人間』

京都精華大学にまつわるキーワードを世界中から集める企画。

京都精華大学は「表現の大学」だ。人間とはなにか。この問いは、ものをつくる、表現する、もっといえば生きることの根源にある。世界中に数多くある「人間」についての言説を集め、紹介する。

人間は生きているときに
大事にするんじゃ！
死んでからお経を唱えて
もらってもクソにもなるか！！
(中沢啓治『はだしのゲン』)

人間は神がつくったとい
うことは僕は信じられな
い。神がつくったものと
しては人間は無常すぎ、
不完全すぎる。しかし自
然が生んだとしたら、あ
まりに傑作すぎるように
思うのだ。
(武者小路実篤『人生論』)

どんなものも見方も相対化して考えてごらんさい。
科学もそのうちのひとつの見方として。

自分の精神のよって立つところに、いっさい、
これは絶対というところはないと思うと不安になるが、
その不安の中で、もがきながら耐えることが、
これから生きていくことになるのではないかとぼくは思う。
近い将来、人類はほんとうに無重力空間に出ていく。
(中略) よって立つ地面はないということが、

物理的な意味でも精神的な意味でも
これからの人間の最大のテーマなのだと思う。
(日高敏隆『世界を、こんなふうに見てごらん』)

優等生なんかじゃありませんけど
楽しげじゃそれでいいんじゃないの？
人間の価値なんて
偏差値だけじゃ決められないでしょ？
(AKB48「青春ガールズ」)

人間には確かに環境に順応する知恵はある
だが 機械に統制されるようにはできてないんだ
知恵を使う前に 我々は生き物なのだから！
(竹宮恵子『地球へ・・・』 ジョミー)

人間は、この宇宙の不良少年である。

(ジェームス・オッペンハイム「戦争と笑い」)

人間は一本の葦にすぎない。

自然のうちで最も弱いものである。だがそれは考える葦である。
(パスカル『パンセ』)

人間は自由であり、つねに自分自身の
選択によって行動すべきものである。
(サルトル『実存主義はヒューマニズムである』)

人間は誰でも心の底に
美しいと静かな湖を持つべきなのだ
(茨城のりこ『みずうみ』)

人間には、
人生を失敗する権利がある。
(映画「アメリカ」より)